

稲作だより

～第13号 稲わら腐熟 編～

来年の茎数確保に向けて稲わら腐熟に取り組みましょう！

1 稲わら腐熟の効果

▼土壌の異常還元(ワキ)防止：

ワキの原因となる未分解の稲わらを減らし、ワキが強まることを防ぐ

▼根の伸長促進：

ワキによる硫化水素等の発生を抑え、根に与えるダメージを抑制する

▼初期の茎数確保：

根の生育が良好になることで、初期分げつが増加し、早期の茎数確保に役立つ。

2 稲わら腐熟の方法

	秋耕	秋の石灰窒素の散布
時 期	刈取直後～日平均気温10℃が確保できる時期 (遅くとも10月下旬まで！)	
効 果	・ 土壌微生物の働きにより稲わらの腐熟分解を促進する	・ 土壌微生物の栄養源となる窒素を添加し、微生物のはたらきを活発にする ・ 土壌を微生物の働きやすいpHに調整する
方 法	耕深約5cmで浅く耕起する。 圃場外周など乾きにくい場所以外を、部分的に耕起しても効果あり！	石灰窒素を圃場に散布 (耕起は必ずしも必要ではない) 施用量：「つや姫」 10kg/10a※ その他品種 20kg/10a
圃場条件	実施時に圃場が一定程度乾いている 排水不良田では、サブソイラー等で透水性を改善してから実施	・ 例年玄米粗タンパク質含有率が高くない

圃場の条件により、稲わら腐熟の方法を選択しましょう！

※石灰窒素を有機物の腐熟促進や酸度矯正のみを目的として使用する場合は、「つや姫」等の特別栽培認証制度における節減対象農薬の使用回数及び化学肥料（窒素成分）の使用量には含まれません。

秋の農作業事故防止運動展開中(9月1日～10月31日)

★機械の点検は、必ずエンジンを停止してから！